

拝啓 時下ますますご清栄のことと存じます。

日頃、真観寺にお心をお寄せいただきありがとうございます。本年の盂蘭盆供養並びに施餓鬼法要を左記のように行いますので、よろしくお願い申し上げます。

施餓鬼会のお知らせ

施餓鬼法要 八月十五日 午後二時

於 真観寺 本堂

施餓鬼法要の終了後は

各家の施餓鬼供養の卒塔婆をお墓に建立しましょう。

新盆で棚行たなぎょうを希望の方はお申し出下さい。

〃〃〃 お知らせ 〃〃〃

児玉義隆教授御来山その後

昨年末の十二月十二日の午後、梵字ぼんじ悉曇しつたん（梵字を書くこと）が専門の種智院大学の児玉義隆教授が真観寺本堂内陣の阿弥陀陀羅尼真言を見学に来られました。

先生は三年来、真観寺本堂内陣の天井梵字の見学を希望されていましたが、京都と埼玉の御自房（ご自分のお寺）を往復する多忙な生活をされていたため、中々、見学は実現しませんでした。この度、児玉先生と真観寺の予定が合い、ようやく天井梵字をご覧いただけました。

先生は梵字を見た後、「是非、半紙に写したいから脚立を立てて良いか」と尋ねられました。先生の学問に対する情熱に並ぶ青年は少ないでしょうが、客観的には先生は還暦を迎えつつあるご年齢であり、「脚立は難しいのでは」とやんわり止めたところ、次は「足場」を希望する事態となりました。結局、仮設足場も高価に付き、安全が保証される訳では無いので、写真に納め、引き延ばして模写いただく事になりました。

千六百年代に活躍した超禅師の年代に近い書体として、非常に貴重な資料だそうです。これを誇りし、大事にしていきたいと思えます。



本堂内陣阿弥陀如来真言

眞観寺の観音さま

左の二枚の写真を比べて下さい。
非常によく似ていると思います。

今年の五月に縁あって真言宗智山派第七教区青年会で岩手県平泉町の中尊寺を訪れました。金色堂の宝物館を見学した際、そこで売られている一枚の絵はがきに目にとまりました。

「あれっ、これはうちの観音様では？」

右が中尊寺の国宝阿弥陀三尊像の聖観音菩薩像、左が我らが県重要文化財指定の眞観寺聖観音菩薩です。決して背景の違う写真ではありません。今回の眞観寺よりはプリンタが壊れたという事情があつて白黒刷りです。カラーで見せできないのが残念ですが、本当にそっくりです。

眞観寺の観音様は従前、宮代町西光院の脇侍によく似ているという指摘がありますが、中尊寺の仏様は「よく似ている」というレベルでなくそっくりさんです。

比較しているだけと言われればそれまでですが、今後、この発見を県の文化財の保護を担当する部署と博物館に報告します。



本堂の復旧工事を進めています。

震災により、本堂内陣が損傷しました。三月十一日の大きな振動では本堂は良く耐え、「流石は四百年の本堂」というところを見せましたが、まあ、長い間のお疲れと言いましたでしょうか、その後が続発する小粒な余震により少しずつ内陣の壁が緩んできました。

このままでは重い土壁が「どさつ」と落ちてくるのも時間の問題です。そうして、落ちてきた土壁は色々な物を壊すことは想像に難くありません。



内陣の東側、左上の壁が緩んでいます。



本堂内陣の様子

そこで、思い切って、上の写真の様に、本尊様にご移動を願いました。内陣の仏具や道具も一切外陣に全部出しました。内陣の壁の大改修を行うことにしました。

上の写真は須彌壇と雛壇を残すのみとなった内陣の様子です。本尊様の裏の来迎壁の一部が茶色くなっているのは四十三世喜継が塗り残した跡です。

昭和五十年以前の来迎壁は武家造りそのままに質朴にも素木のままでした。祖父はどこかで「来迎壁Ⅱ白」と言われたのでしよう、祖母と父の反対を押し切って白く塗ったよう

です。（しかも本尊様にご移動願わずに！）
八月十五日の盆に大工工事が間に合うよう復旧工事の施工を進めます。

また、この工事施工が可能なのは眞観寺に客殿があるからです。



上)床の間は本尊様/下)前机台壇他

四十四世俊継遷化

平成二十四年七月二日十一時四十分頃、眞観寺住職を十二年務めた四十四世俊継が遷化しました。享年七十一才でした。

俊継の任期は短かったですが、その間の一番大きな仕事は寺域の復元です。埼玉県中でこれ程の復元を行った寺は無いと思います。

次に大きな仕事は仁王門の解体修理と客殿の造営が挙げられます。最後に地味な仕事ですが、重要な仕事としては喜継の代にやり残された観音堂と本堂の避雷針の取付が挙げられます。この仕事により、眞観寺は落雷の憂いから解放されました。

大いに働いた最初の六年間でした。しかし、病が思うようではなく、後半六年間は療養していましたが、摂食障害を発し、寿命を迎えました。葬儀は眞観寺と西明寺の合同葬儀と成ります。詳細は七月第二週に郵送にてお知らせします。

般若心経講について

般若心経を読んでお唱えできる様に、今年も般若心経講を開催します。初心者向けに息継ぎの場所から始めてゆっくり進めていきたいと思います。興味のある方はご参加下さい。九月に葉書にて改めて案内します。

尚、九月十八日の回は日曜日の開催となります。昨年同様に普段なかなか人に尋ねることの出来ないお焼香の作法や鈴りんの打ち方などを実践しながらお話します。若い方の参加もお待ちしております。



般若心経講の様子

日程

九月十八日（火曜日）

十月十八日（木曜日）

十一月十八日（日曜日）

十二月十八日（火曜日）

（毎月十八日は観音様の日です）

時間

午前十時より十一時半まで

場所

眞観寺客殿